

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻 博士前期課程		
氏 名	山本 航平	学籍番号	0736030
論 文 題 目	学習障害（LD）等を持つ児童・生徒に対する指導の現状と課題 ～個別指導事例の分析より～		
<p>要 旨</p> <p>【研究背景・目的・方法】</p> <p>知的には遅れがないにもかかわらず、ある特定の学習に困難を示す子どもたちが存在する。彼らは学習障害（LD）と呼ばれる子どもたちである。また、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症など、知的には遅れがないが、生活上、学習上困難をきたしている子どもたちがいる。彼らのうち多くは通常の学級に在籍しており、特別な支援を必要としている子どもたちである。わが国では学習障害等の定義の取りまとめ及び取り組みに伴い、障害に対する概念も近年変化を見せた。障害を「ある一定の能力の欠け」と見なすのではなく、それぞれの「個性」と見なし、個人のニーズに応えるような「特別支援教育」という概念が打ち出されてきた。子どもたち個人に焦点を当てた指導に関する研究が必要なのである。</p> <p>本研究の目的は「わが国における学習障害等を持つ児童・生徒への指導の現状および実態を明らかにすること」「これらの生徒の教育方法の類型を明らかにすること」「指導の現状や課題について考察すること」の3点である。</p> <p>方法は、我が国における、1999年以降の学習障害等およびそれに類似する児童生徒に対する個別指導事例を可能な限り収集し、集計した上で、各データについて考察するというものである。なお、収集した事例は、生徒数221人、指導事例288件である。</p> <p>【現状と課題】</p> <p>指導事例の8割以上が小学生であったというのが我が国における現状である。中学生以上は指導の臨界期を過ぎてしまうことや、思春期を迎えるため個人に焦点をあてた指導が難しいという可能性などが考えられるが、各年齢にふさわしいサポートを必要としていることは確実であるため、中学生以上の生徒に関する指導方法についてもより多くの実践的な研究がなされることが望ましい。指導全体としてはソーシャルスキルに関する指導が最も多く、ロールプレイ等を行い、より実践的な場面を想定して行うなど、実際の社会生活でどのように歩んでいくかを念頭においた指導がなされていた。</p> <p>【成果】</p> <p>本研究の成果は「学習障害等の児童生徒の特徴、障害の概念についてまとめたこと」「学習障害等の児童生徒に対しての指導の現状を明らかにしたこと」「指導方法についての類型化を行ったこと」の3点である。実際に指導を行う際、目的に応じた指導の方法をひと目でわかるように示した。本研究が現場によりよい情報を提供するものだと思っていきたい。</p>			